

神にとって不可能なことはない

ルカの福音書 1 章 26-38 節

はじめに

アドベント第三主日になり、クリスマスが近づいて来ました。クリスマスはイエス様の誕生を祝う時ですが、今日は、イエス様の母マリアの視点から、イエス様の誕生の出来事を見ていきたいと思います。

イエス様は処女である若い女性のマリアから生まれました。ある時、御使いガブリエルがマリアのもとに現れて、「**あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい**」と言われます。そしてその子は、人々が待ち望んでいた救い主メシアである、またその子は聖霊によってあなたに宿る、聖なる神の子であると言われるのです。

マリアは、あまりにも突然の出来事であったので戸惑いますが、そのことを受け入れて、イエス様の母となっていくのです。

1. マリアについて

マリアは、26 節にあるように、「**ガリラヤのナザレという町の一人の処女**」でした。「ナザレ」という町は、新約聖書に初めて出てくる町で、旧約聖書には一度も出てきません。人々からは、「ナザレからは何も良いものが出ない」（ヨハネ 1：46）と思われていた小さな田舎町でした。

「マリア」という名前は、旧約聖書に出てくるモーセの姉の「ミリヤム」からとられた名前です。ミリヤムは女預言者で、モーセと共にイスラエルの民を導いた女性です。ですから人々は、女の子が生まれると、好んで「マリア」という名前を付けたようです。新約聖書には、「マリア」という名前の女性がたくさん（5人）出てきます。ですからマリアという名前は、特別な名前ではなく、とても平凡な名前でした。

ですからマリアは、決して特別な人ではありませんでした。小さな田舎町に住む平凡な女性だったのです。

27 節には、彼女は「**ダビデの家系のヨセフという人のいいなづけ**」であったとあります。彼女は、夫であるヨセフと婚約していました。当時、婚約した二人は正式な夫婦となります。しかし実際に一つ屋根の下で一緒に生活をするのは、約一年間の婚約期間を経た後であったようです。当時は、男性が成人するのは 13 歳であり、女性は 12 歳であったと言われます。ヨセフとマリアが何歳で婚約して夫婦となったのかは分かりませんが、おそらく十代であったと思います。

マリアはヨセフと結婚し、素朴で幸せな家庭を築き、小さな田舎町で静かに幸せに暮らす

未来を思い描いていたのではないのでしょうか。彼女には、彼女なりの人生の計画があったでしょう。

しかし彼女の人生の計画は、御使いガブリエルの登場によって、突然、予想もしていなかった方向へと変えられていくのです。人々が待ち望んでいた救い主メシア、聖なる神の子を聖霊によって身ごもり、母となるという人生です。この人生は決して、彼女が望んでいた人生でも、彼女が祈り求めていた人生でもありませんでした。全く思いもよらない人生でした。

私たちもそれぞれ、人生の計画や未来予想図があるでしょう。ある人は、夢や目標を持ち、その実現に向かって毎日努力していきます。またある人は、具体的な夢はなくても、生活に困らない程度に家族みんなが健康で、それなりに幸せに暮らせればそれでよいと考えます。

しかし私たちには、思いもよらない出来事によって、人生の計画が全く変わってしまうことがあります。病気になったり、事故に巻き込まれたり、災害に遭ったり、事業に失敗したり、家族に問題が起きたり、愛する人を失ったり・・・。

自分の夢や目標を確実に実現していく人もいますが、多くの人の人生は、決して思い通りになるものではありません。箴言 19：21 には、こうあります。「**人の心には多くの思いがある。しかし、主の計画こそが実現する**」。私たちには様々な人生の計画があります。計画を立てることや夢やヴィジョンを持つことは、決して悪いことではありません。しかし、私たちの人生の背後には、神様の御計画があることを知らなければなりません。神様は、御自身の御計画に従って、世界全体と私たちの人生を導いておられます。私たちは、神様の御計画に逆らうことはできません。私たち一人ひとりの人生に対する神様の御計画は、私たちには隠されています。ですから私たちにとっては、「神様なぜですか？」と言いたくなるようなことがしばしば起こります。神様に対する信頼が揺らいでしまうようなことも起こります。そのことのゆえに、神様の愛を疑い、神様の存在を疑い、信仰から離れていく人さえいます。

2. マリアの献身

マリアは、人生の計画の変更を余儀なくされました。しかし彼女は、戸惑いながらも、「**私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように**」と言って、人々が待ち望んでいた救い主メシア、聖なる神の子を聖霊によって身ごもり、母となるという人生を受け入れ、神様に自分の未来を委ねていったのです。それは、自分の人生の計画を手放すことでもありました。自分の思い描いていた未来を諦めることでもありました。なぜ彼女は、突然の予期せぬ人生の計画の変更を受け入れることができたのでしょうか。

彼女は自分を「主のはしためです」と言いました。彼女は、自分は神様に仕える奴隷や召使いだと考えたのです。彼女には、御利益信仰はありませんでした。彼女の信仰は、神様が自分を幸せにしてくれるなら信じるし、幸せにしてくれないなら信じないというものではありませんでした。彼女の信仰の基本的な姿勢は、神様は絶対的な存在で、自分は神様に従うべき存在であるというものでした。神様の御計画は揺るぎないもので、自分はそれに従う他ないというものでした。御利益信仰の場合、つまり自分の幸せのために神様を信じている

ような場合、突然の人生の計画の変更は決して受け入れることはできません。

もう一つ、彼女が突然の人生の計画の変更を受け入れることができたのは、御使いの言葉があったからです。御使いは彼女に、これらの言葉をかけました。「**おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます」「恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです」「神にとって不可能なことは何ともありません」**。

マリアにとって、人々が待ち望んでいた救い主メシア、聖なる神の子を聖霊によって身ごもり、母となるという人生は、多くの不安がありました。婚約者であるヨセフは、このことを理解してくれるだろうかという不安もあったでしょう。実際ヨセフは、マリアが自分の知らないうちに身ごもったことを知った時、婚約を解消し、離縁（離婚）しようと考えたのです。マリアとヨセフは離縁（離婚）する寸前までいったのです。

また旧約聖書の律法では、婚約中に他の男性と性的な関係を持った場合、石打ちにされて殺されなければなりません。聖霊によってみごもったということが理解されず、石打にされる命の危険もあったのです。

しかしそれでもマリアは、神様の御計画を受け入れ、それに従い、自分の人生を神様に委ねていったのです。それは彼女が、神様に不可能なことは何もないと信じたからです。どんなことでもできる神様が、自分の人生を必ず導いてくださると信じたからです。またその神様がいつも自分とともにいてくださると信じたからです。神様がいつもともにいてくださるとは、神様がいつも守ってくださるという意味です。彼女はそう信じたのです。また「おめでとう恵まれた方」また「あなたは神から恵みを受けたのです」と言われたように、この人生の計画の変更には必ず神様の恵みがある、神様の御計画には恵みが満ちていると信じたのです。つまりマリアは、「信仰」によって、自分の人生に対する神様の御計画を受け入れていったのです。

実際マリアは、ヨセフとの離縁（離婚）することも、石打にされることもありませんでした。神様がヨセフのもとにも御使いを遣わして、ヨセフにも信仰を与えてくださったのです。

しかし神様の御計画に従ったマリアの人生は、決して何の苦労もない人生ではありませんでした。イエス様の母となったマリアは、イエス様の十字架の死を見届けなければなりません。お腹を痛めて産んだ息子を、目の前で殺される姿を見なければなりません。イエス様が十字架で死なれた時、マリアはすでに未亡人でしたから、おそらく夫のヨセフは、先に天に召されていたのです。マリアの人生は、夫に先立たれ、息子を目の前で殺される人生でした。

しかし御使いは彼女を、「恵まれた方」「あなたは神から恵みを受けた」と言いました。客観的に見れば、マリアの人生は不幸であったかもしれません。しかしそれでも、マリアの人生には神様の恵みが確かにあると言うのです。おそらくマリア自身も、自分の人生を不幸だとは思わず、信仰を捨てることもなく、自分の人生を恵みとして受け取っていたでしょう。その証拠に彼女は、イエス様が復活し天に昇られた後の初代教会の祈り会の中で、心をつつにして祈っていたのです。

おわりに

マリアは、「信仰」によって、突然の予期せぬ人生の計画の変更を受け入れ、神様の御計画に自分の人生を委ねていきました。私たちの人生は、必ずしも自分の思い通りになるものではありません。予期せぬ出来事で、人生の計画の変更を余儀なくされることもあります。

聖書が私たちに教えていることは、神様は御自身の御計画に従って、世界全体と私たちの人生を導いておられるということです。しかし私たちの人生に対する神様の御計画は、私たちに隠されています。私たちに理解できないことがしばしば起こります。

しかし使徒パウロは、このように言いました。「**神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています**」(ローマ 8:28)。神様は、私たちに起こるすべての出来事を、私たちの益となるように導いてくださると約束しておられます。しかし神様は、すべての人にこのことを約束しているわけではありません。神様は、「神を愛する人たち」また「神のご計画にしたがって召された人たち」に対して、約束しているのです。

「神を愛する人たち」とは、誰でしょうか。それは、イエス様を信じて神様と共に生きる人、神様に従って生きる人です。「神のご計画にしたがって召された人たち」とは、誰でしょうか。それは、自分の人生に対する神様の御計画を受け入れ、神様の御計画に自分の人生を委ねる人です。自分の人生の計画に生きるよりも、神様の御計画に従って生きる人です。たとえ、突然の予期せぬ出来事によって、人生の計画の変更を余儀なくされても、どんなことでもできる恵み深い神様が共にいて、自分の人生を必ず導いてくださると信じる人です。神様は、そういう人の人生に起こるすべての出来事を、すべて益と変えてくださると言うのです。

私たちがもしマリアのように、神様を愛し、神様の御計画に従って生きるなら、何も恐れることはありません。たとえどんなことが起ころうとも、神様が私たちの益となるように、恵みに変えてくださるからです。

天におられる恵み深い父なる神様。

あなたは御自身の御計画に従って、世界全体と私たち一人ひとりの人生を導いておられます。あなたの御計画のすべてを私たちは知ることはできません。しかし、明らかにされていることは、あなたを愛し、あなたの御計画に従って人生を委ねて生きるなら、あなたが共にいてくださり、すべてのことを益と変え、恵みで満たしてくださるということです。

どうか私たちが、あなたの約束を信じて、あなたの御計画に信頼して、あなたに人生を委ねて生きることができるよう。ただあなたに従い、あなたを愛していけますように。

この祈りを、私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。